

# ヴェルディ作曲 歌劇「ドン・カルロ」

130112

幕	場	場面	内容	分	主な踊る登場人物					見どころ・聴きどころ		
第一幕 30分	1	カルロとエリザベッタの燃え上がる愛と別離	カルロはお忍びで、婚約者であるエリザベッタを一目見ようと、狩人に紛れてわざわざフランスのフォンテンブローの森にきている。	30	7	カルロ				修道士達	カルロのアリア	
	2		偶然エリザベッタと出会い心躍らせる、エリザベッタも将来の夫に対して愛を打ち明け、二人の愛が燃え上がる。		13	カルロ	エリザベッタ					
	3		小姓のテバルドが、エリザベッタが皇太子妃でなくスペイン王妃に決定した報告を持ってくる。エリザベッタは、この報告に悲しみ傷つき、カルロも結婚できなくなった残酷な運命を呪う。		10	カルロ	エリザベッタ					
第二幕 65分	1	カルロの嘆き	修道士達が、「悩める魂は、天でのみ安らぐ」と祈っているところにカルロが登場する。政略結婚の犠牲になったカルロの嘆きを友人ロドリゴが聞き、フランドルの民衆のために立ち上がる方向に切り替えるよう諭す。カルロも新しい人生に向けて二人は義兄弟の契りを結ぶ。	30	18	カルロ		ロドリゴ				
	2	エリザベッタとの再会	エボリ公女を中心に王宮の女官達がくつろいでいるところにエリザベッタが姿を見せる。ロドリゴも登場しエリザベッタに、カルロが息子として面会を希望している旨伝えて承諾を得る。それを聞いたエボリは、カルロの自分への愛の件と勘違いする。そして、エリザベッタは一人になる。		18		エリザベッタ	ロドリゴ	エボリ	女官達	エボリのアリア 「ペールの歌」	
	3		表向きカルロは、フランドルに行く許可を得ることを国王に取り次ぐよう依頼する。しかしカルロはエリザベッタに対する想いを閉ざさずに愛を打ち明けてしまう。エリザベッタはカルロに対する想いを閉ざしたにもかかわらず揺れ動くが、毅然とした姿勢を貫く。	12	カルロ	エリザベッタ				エリザベッタのカルロとの面会		
	4	国王の性格描写	王が登場しエリザベッタが一人で居のを見て怒り、担当女官のアレンベルグ伯爵夫人に母国フランスへの帰国を命ずる。泣き出す夫人にエリザベッタは優しく慰めの歌を国王を批判しつつ歌う。	17	5		エリザベッタ			国王	女官達	エリザベッタのアリア
	5		国王はロドリゴを呼び止め、忠実な報酬として何かしてあげたいと言う。ロドリゴは、剣と血から平和は生まれれないと言うので、国王は「そのうちにわかる」と言い返す。国王は、単刀直入なロドリゴを許すが、宗教裁判長には用心するよう忠告する。また、国王から王妃とカルロから愛されぬ苦悩と苦痛を告白されるので、ロドリゴはその信頼に喜ぶ。		12			ロドリゴ		国王		国王とロドリゴの会話
第三幕 37分	1	カルロの反逆、ロドリゴの阻止	「真夜中の密会」の手紙を受け取ったカルロは、現れたペールを被っている相手がエリザベッタと思い愛を告白してしまうが、実はエボリからの手紙であった。彼女は恥辱と嫉妬から怒り狂い復讐を誓う。ロドリゴは殺害を薦めるがカルロは止めてしまう。ロドリゴはカルロが持つ密書等を預かる。	37	15	カルロ		ロドリゴ	エボリ			
	2		聖堂前で異端者を火刑にするために行進させているが、カルロがフランドルの使節団を連れて「フランドルの民衆に慈悲を。」と国王に願ひ出る。国王が反逆者扱いするのでカルロが剣を抜く。止めたのがロドリゴであったのでカルロは剣を渡す。火刑台に火が付けられ空が明るくなる。		22	カルロ		ロドリゴ		国王	民衆	合唱 「歓喜の陽が昇った」
第四幕 60分	1	王妃の失望、孤独な国王、ロドリゴの決意	王妃から愛されず一人寂しい国王は、息子カルロ反乱に対する処置について宗教裁判長に相談する。宗教裁判長は、カルロだけでなくロドリゴまでも死刑を求める。	60	20					国王	宗教裁判長	フィリッポのアリア
	2		王妃は自分の宝石箱が盗まれたので国王に直訴する。国王は手元にあるといい、カルロの肖像画が入っていることで王妃の貞節を疑う。王妃は反論して失神してしまいロドリゴとエボリが駆けつける。王妃とエボリは罪を感じ、ロドリゴは死の決意をし、エリザベッタは希望を失う。エボリは王妃に二つの懺悔をする。①王妃に対する嫉妬から宝石箱を盗んだ②王と不倫関係にある。そして、「自分の美貌を呪い修道院に入る。」と歌うが「民衆を扇動してカルロを助ける」ともいう。		20		エリザベッタ	ロドリゴ	エボリ	国王		エボリのアリア
	3		ロドリゴは牢屋のカルロに会いに来て、「①釈放される。②フランドル扇動の全責任を自分が取るので釈放される。③明日、サンジュスト修道院で王妃が待っている。」伝えて国王の部下の銃弾に倒れ死ぬ。エボリを筆頭に民衆達が来てカルロの釈放を要求するが、宗教裁判長により制圧される。		20	カルロ		ロドリゴ	エボリ	国王	宗教裁判長	ロドリゴのアリア
第五幕 25分	1	「心の葛藤は天上にて消える」	王妃は青春のフォンテンブローの緑を懐かしみ、ロドリゴの遺言を伝えるためカルロを待っている。その内容は「フランドルの民衆のために命を捧げるべき、愛は天上の世界で成就させよう。」修道僧の姿をしたカルロ5世が現れ、カルロは墓へ、王妃は倒れて幕が降りる。	25	カルロ	エリザベッタ			国王	修道士	エリザベッタのアリア	

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。